

音楽発表会

－友達の意見を受け入れよう－

- 1 学年 第5学年〔中期〕
- 2 主題名 謙虚・寛容〔2－(4)〕
- 3 ねらい
友達と意見が対立する主人公「ゆみ子」が、相手の気持ちを受け入れることの大切さに気付いていく姿を通して、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を育てる。
- 4 資料名 「音楽発表会」
- 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導入	1 藤井清水について知る。 ○ 藤井清水さんについて知っていることを発表しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 呉市出身の作曲家 ・ 呉市歌を作曲した人 ・ 生涯で1900曲を作曲した人 	○ 児童から出ない内容は、教師が写真等を準備しておき紹介する。
展開	2 資料「音楽発表会」を読んで話し合う。 ○ 「ゆみ子」が「なおみ」と目を合わせられなかったのはなぜでしょう。 ○ はっとした「ゆみ子」は、どんなことを考えたでしょう。 ◎ 「ゆみ子」の方から「なおみ」に近付いた時、「ゆみ子」は「なおみ」にどう話しかけたでしょう。 3 自分の経験を振り返り話し合う。 ○ 今までに相手のしたことや言ったことを自分が受け入れられなかったことはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見の方がいいと思っているから。 ・ 自分と違う意見だったから。 ・ なおみさんの意見を受け入れることができなかったから。 ・ どうしよう。私が学校で反対した曲なのに、おばあちゃんは楽しみに思っている。 ・ おばあちゃんは藤井さんの曲が聞けると勘違いしている。 ・ このまま自分の意見を通してもいいのかなあ。 ・ なおみさんの意見の方がいいかな。 ・ 昨日は無視してごめんなさい。 ・ 昨日は一方的に自分の意見を押付けてごめんなさい。もう少し、よく聞けばよかった。 ・ なおみさんのおかげでおばあちゃんが喜んでくれたよ。 ・ なおみさんの提案の方が音楽会に来てくれる人も多くなり、喜ばれると思うわ。 ・ 委員会の話合いの時、友達と意見が違って、自分の考えを曲げることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの場面設定を押さえるため、分割提示する。 ○ 「なおみ」の意見を受け入れられない「ゆみ子」の気持ちを押さえる。 ○ おばあちゃんとの会話の中で、「ゆみ子」の気持ちに変容していくことに気付かせたい。 ○ ワークシートに、自分の考えや思いをまとめさせ、話し合い活動が活発に行われるようにする。 ○ 相手と意見や考えが違った時の自分の対応について振り返らせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の意見や考えを素直に受け入れられるようになりたい。 	○ 相手の気持ちを受け入れることの大切さに気付かせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

内容項目〔2－(4)〕は、「小学校学習指導要領道徳編」では、「広がりや深まりにある人間関係を築くために必要な謙虚な心と広い心をもった児童を育てようとする内容項目である」と記されている。中期に当たる児童は、ものの見方や考え方の違いをこれまで以上に意識するようになる。また自立への欲求が高くなってくる時期である。しかし、自分と異なる意見や立場を受け入れられず、自己主張をし過ぎてトラブルになる場合もある。このような時期だからこそ、相手の意見を広い心で受け入れ、相手の立場に立って考える態度を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 実施時期

学習発表会や音楽発表会の時期に実施すると効果的である。

イ 他教科等との関連

呉市出身の作曲家である藤井清水を素材としているため、音楽科で藤井清水が作曲した歌に触れたり、総合的な学習の時間に藤井清水について調べたりして、総合単元的に扱うことができる。また、学習発表会等の学校行事に、藤井清水の作曲した歌を歌うこともできる。

ウ 日常生活の中で

中期の児童においては、学級活動や委員会活動、クラブ活動等の話合いの場が少しずつ増えてくる。だからこそ、互いに相手の立場に立って考える態度を育てる必要がある。実際に日常生活の中で意見が対立した時に、自分の意見や考えを主張するだけでなく、相手の立場に立って考えることの大切さをこの授業と関連させながら、その都度指導していく必要がある。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

本時の導入においては、資料への興味付けを行うために、総合的な学習の時間と関連させて、藤井清水について調べたことをもとに発表させたい。「呉市歌」を聞かせた後、クイズ形式とし作曲者を当てさせる等の工夫を行いたい。

イ 展開の工夫

中心発問で「ゆみ子」の気持ちの変化を捉えることができるように、基本発問で「ゆみ子」が「なおみ」の意見を受け入れられない気持ちについて押さえておきたい。また、中心発問では、ワークシートを活用することにより、児童の考えをより深めさせ、話合いを活発に行わせる手立てとしたい。

ウ 終末の工夫

教師の経験やクラスの中で実際にあった話等をクラスの実態に応じて効果的に行うことにより、友達の意見や考えを受け入れることの大切さを実感させたい。

執筆者より

本校出身の作曲家である藤井清水を素材として自作資料を作成した。藤井清水を素材として他の価値項目（例えば、郷土愛、愛校心等）でも自作資料の作成ができると思う。この資料を扱う際は、昭和支所に「藤井清水資料室」があるので活用するとよい。また、中央公園に藤井清水碑があるので、導入等で活用したい。

(昭和西小学校 中村 友美)